

2-2 ハクビシン

【分布】

ハクビシンは東南アジア、中国南東部、台湾などに広く自然分布しているジャコウネコ科の動物である（写真2-2-1、動画1）。日本には外来種として持ち込まれた動物であり、明確な生息状況の記録として最も古いものは1943年に静岡県内で捕獲されたものとされている。当時の分布は一部地域に限られていたが、現在では青森県以南の東北地方から中国地方の一部地域、四国全域での分布が確認されており、関東地方から近畿地方では市街地でも目撃されている。北海道は過去に分布の報告があったが近年は確認されておらず、九州地方、沖縄でも分布情報は得られていない（図2-2）。

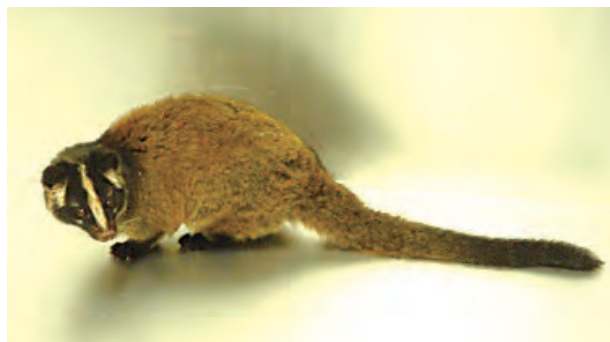


写真2-2-1 ハクビシン

【生息環境、形態的特徴、基本生態】

日本では、高標高地から農地周辺、都市部まで様々な環境に生息している。体の大きさは鼻先から尾の先まで1m程度であり、頭から胴体と同程度の長い尾を持つ。体は茶褐色から灰褐色で、黒い頭部に鼻筋が白いのが特徴である。四肢は短く、足場の悪いところや不安定な場所でも長い尻尾でバランスを取りながら移動できる。前肢、後肢ともに丸形の5本指で分厚い肉球を持つ（写真2-2-2、2-2-3）。爪は小さいため、柱などを登る際には爪を引っ掛けて登らずに、分厚い肉球を押し付けて挟むように上り下りする（写真2-2-4、2-2-5）。そのため、雨樋のよ

うなツルツルした素材の柱でも登ることができる。

基本的には単独もしくは母子で活動しており、活動時間帯は夜間に偏っている。飼育している個体も日中は寝ているので、生来の夜行性と言える。気温の下がる冬は、活動を低下させて半休眠状態になる。休息のためのねぐらは1頭が複数箇所持ってお

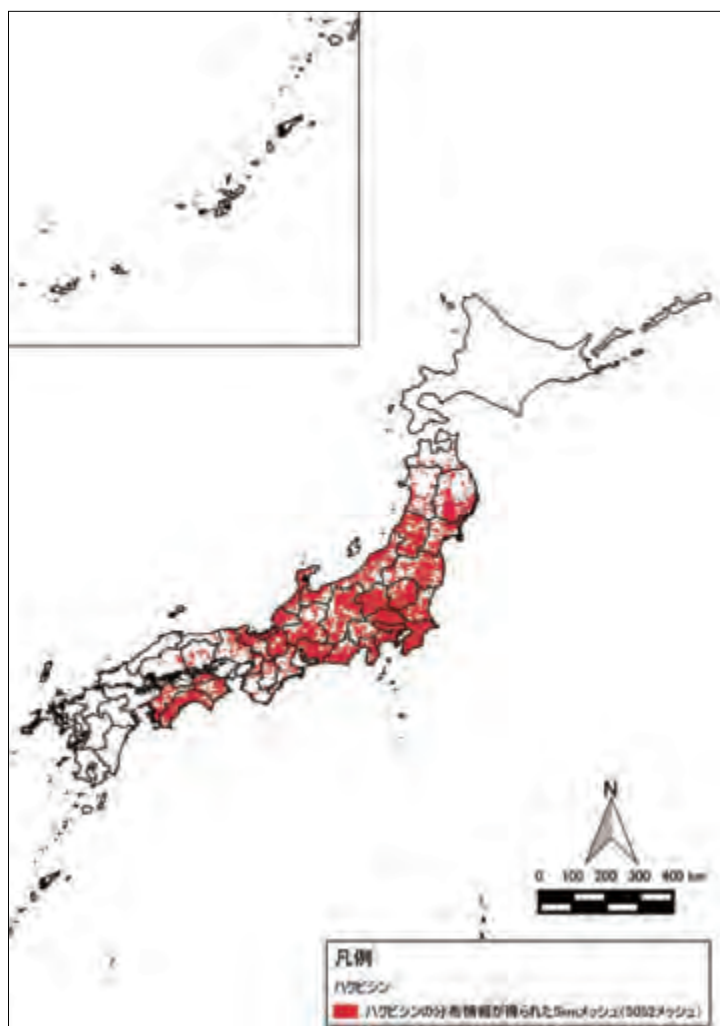


図2-2 ハクビシンの分布(環境省)



写真2-2-2 前肢の肉球



写真2-2-3 分厚い肉球と小さな爪

り、明確な縄張りを持たないことから他個体と共同もしくは時間差で使用することもある。

雑食性で植物質から昆虫類、小型齧歯類、ヒヨドリなどの鳥類、ナメクジなど何でも食べる。農作物では、甘くて汁気の多いぶどうやかき、トマトなどを好む。そこにあるものを何でも食べるという食の柔軟性が高いことも、様々な環境で生息可能なことに一役買っている。実際に東京都では23区のほぼ全域に分布しており、ビルなどが立ち並ぶ環境でも、ギンナンなど結実のある景観樹や生ごみなど餌になるものがあれば生活できる。また、ハクビシンは木登りなどの立体的な移動能力に長けており、細い電線の上も移動できる。交通量が多い都市環境下では、ハクビシンは電線の上など空中に張り巡らされた構造物を使うことで安全に生活を送れる（写真2-2-6）。

日本では、繁殖期は1月～9月、出産期は3月～11月と推定されており、ほとんど年間を通して繁殖する。妊娠期間は約2ヵ月で、1度に1～4頭が生まれる。樹洞や家屋の天井裏などをねぐらや出産・子育ての場として利用する。子は生後1ヵ月くらいからねぐらを出て母親について出歩くようになり、生後3ヵ月で成獣と同程度の体重になるが、子別れの時期は明確ではなく、母親と同じような体サイズになっても一緒に行動している様子も観察される（動画2、3）。



写真2-2-4 柱を登る



写真2-2-5 右が前肢、左が後肢の足跡



写真2-2-6 電線を渡る様子



写真2-2-7 みかんの食害



写真2-2-8 皮と種が吐き出されたギンナンの食痕

【被害の概要、特徴】

農作物の食害、家屋侵入被害に加えて、飼育している鶏を食べられたという被害も報告されている。ハクビシンは立体的な運動能力に優れることから、果樹や果樹棚に登って食害する。体重が3～4kg程度であることから、果樹の枝が折れることは少なく、身軽に枝先まで移動できる。ぶどうやトマトなど、外皮が口に残るものは、器用に皮のみ吐

き出す。みかんやナシは枝先近くまで行き直接実をお尻の方から食べるため、枝先に実の上部が残る（写真2-2-7、2-2-8）。とうもろこしも被害に遭いやすい作物であるが、軸を登って器用に皮を剥き、実の部分を食べる。とうもろこしの粒の薄皮が軸に残った食痕になるため、子供が食べたように見える（写真2-2-9）。落花生を食べられた、という報告を聞くことがあるが、ハクビシンは土を掘って餌を食べる行動はしないため、タヌキやアナグマによる被害の濡れ衣の可能性が高い。



写真2-2-9 とうもろこしの食害



写真2-2-10 天井裏に堆積した糞尿

ねぐらや出産・子育ての場として、家屋を利用する場合があります、その際に発生する騒音（足音や子の鳴き声）や排泄物による汚染などが家屋侵入被害として報告されている（写真2-2-10、2-2-11、2-2-12、2-2-13）。6cm×12cmの隙間があれば侵入でき、夏場は涼しい床下を、気温が下がってくると暖かい天井裏（1階と2階の間の空間、屋根下）を日中の休憩場所として利用する。ハクビシンはねぐら内で排泄するため、糞尿が堆積し天井板が落ちる被害にまで発展した事例もある。ハクビシンにはノミやダニが付いており、それらが媒介する病気や、ハクビシン自体や糞尿を経由して伝搬する感染症があるため、過度な接近は注意が必要である。人への感染だけでなく、ペットに感染する恐れがある病気も媒介するので、ペットの生活空間にハクビシンが長時間滞在しないようにすることも必要だ。



写真2-2-11 天井裏に残ったハクビシンの足跡



写真2-2-12 天井裏で子運ぶ母親



動画1_ハクビシン



動画2_親子4頭



動画3_親子2頭



写真2-2-13 生後1週間程度のハクビシン